



編 集 発 行

平成18年 1月 6日発行 第363号

東京都公立中学校事務職員会

代 表 戸上輝世(足立区立西新井中)

編 集 佐藤重雄(板橋区立加賀中)

連絡先 〒173-0003 板橋区加賀 2-19-1

TEL03(3964)1954

八木(八王子) 吉野(清瀬) 大川(葛飾)

平井(東村山) 横山(江戸川) 福田(足立)

森田(青梅)

## 平成17年度 東京都公立中学校事務職員会研究大会のご案内

来る2月10日(金)、東京都教職員研修センター(目黒)において東京都公立中学校事務職員会研究大会が開催されます。研究大会の分科会は、第1分科会(青梅支部)「就学援助事務」について、第2分科会(昭島支部)「学校事務と社会保険」についてです。今回の会報は、各分科会の発表概要などを特集いたしました。開催文書と併せてご覧ください。

講演は、演題「学校経営の中核を担う事務職員の役割」で講師は、前全国公立小中学校事務職員研究会会長で現在、横浜市立谷本中学校長の神谷 敏明様です。

この研究大会を盛大かつ実りのあるものにしたいと存じますので、1人でも多くの参加をお待ちしております。

### 第1分科会 就学援助事務、やっていますか

青梅市中学校事務職員会

青梅市学校事務職員の担当業務の中では、就学援助事務が大きな比重を占めています。民生委員・学校長・事務職員等で構成される認定会議の設定や資料作成など、他の自治体ではほとんど例がない業務も事務職員が担当し、認定段階から参画しています。

そのような中で、就学援助事務にどのように関わるべきか、また自治体間の制度の狭間で救済されない家庭をどうするか、というような問題に日々直面しています。

今回、青梅市の就学援助事務の実際を紹介し、関係法令や多摩地区のアンケート集計結果の分析を交えながら、私たちにこれからの方向性を探りたいと考えました。

研究発表は2部構成とし、本編にはいる前に、前段として青梅市中学校の概要を紹介します。

第1部では多摩地区29市町村に本市を加えた30市町村のアンケート結果を元に、データの集計分析・市町村間の比較・事務職員の関わり方を検証し、具体例を交えながらその課題や問題点を浮き彫りにしていきます。

また、居住主義をとるか、学校在籍主義をとるか、自治体によって認定要件が相違することから、本来救済されるべき家庭が就学援助の申請ができない事態が起こり得るという問題点について言及し、これからの指針について提案します。

第2部では、事務執行にかかる根拠法令と関係法例、東京都と青梅市の就学援助費の年度別推移、さらに青梅市の就学援助に関する規則・処理要綱・事務の流れなどを紹介します。

特に青梅市独自のスタイルとも言える「就学援助認定会議」の部分は、興味深く聞いていただけないのではないでしょうか。この会議に関わる一連の作業こそが就学援助事務を行う上での大きな負

担となっているところです。個人情報保護が叫ばれるなか、申請者一覧表の作成など個人情報にどこまで関わってよいものか、ほとんどの事務職員が暗中模索の状態にあります。しかし、一方でこの会議の場は、民生委員と学校との貴重な情報・意見交換の場となっており、この認定会議の功罪についても実際に関わってきた者の目で検証して行きます。

さらに、本年4月から義務教育費国庫負担法等の一部改正により、就学奨励法のうち準要保護が国の補助対象からはずされました。制度改正等にもなって今後予想される事態を検討する必要があるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、この発表が就学援助事務の適正化・効率化の一助となり、また真に就学援助を必要とする家庭に少しでも役立つことができれば幸いです。

## **第2分科会 学校事務と社会保険について**

昭島市小中学校事務職員会

現在学校にはさまざまな任用体系の人がいます。正職員、臨時任用、講師、再任用、再雇用等です。これに伴って給与や勤務条件に適用される規則関係や社会保険関係も違ってきます。しかし、正確に理解している事務職員はいるのでしょうか。事例が発生してから調べれば大丈夫と思っている自信のある事務職員は相当いると思います。しかし、盲点があるかもしれません。普段から勉強しておく必要があるのではないのでしょうか。そこで昭島市事務職員会では社会保険全般をとおして勉強のしなおしをして、それを研究発表することにしました。

社会保険といえば我々の場合、共済組合の健康保険と共済年金です。これについてはまとまった手引きがあります。しかし、それ以外の政府管掌健康保険、厚生年金、雇用保険について手引きはありません。また、服務関係と関連づけて説明しているものもありません。実際本市でも育児休業代替の教員が入院する事例がありました。社会保険事務所に傷病手当と高額医療費を請求しました。病気休暇給与減免との関係で傷病手当の請求が発生した事例です。再任用職員や再雇用職員が入院した場合の服務や社会保険はどうなるのでしょうか。

社会保険の給付はすべて本人の申請主義ですので自己責任の範疇にはいるでしょう。だからといって事務職員がなにもしなくていいというわけではありません。また、多くの団塊の世代は退職を間直に控え自分自身の問題でもあると思います。

少子高齢化の進行が社会のあらゆる場面で変革をおしすすめています。介護保険についても他人事ではなくなっています。身近に介護認定を受けている人がいるのが普通になっています。介護保険の知識も仕事に役立つはずです。

ニートやフリーターが社会問題化していますがこのような若者をかかえた職員も少なくありません。年金不信で国民年金の不払いが問題になっている折、職員から国民年金の支払の相談を受けるかもしれません。決して不払いを薦めてはいけません。猶予や免除制度を利用すれば障害を負った場合、年間100万円の年金を貰えるのです。

少子高齢化と経済の低迷で年金の将来は決して明るいものではありません。保険料は確実に上がり、給付は確実に下がるのです。目減り分については自己責任で補填する時代になるでしょう。自分の子どもたちの将来を考えて企業年金や国民年金基金、確定拠出型年金（日本版401K）等の知識も知っているとよいでしょう。

これからの時代は以前の右肩上がり経済成長のようになんでもお上に任せておけば大丈夫というような訳にはいきません。完全に自己責任が求められる時代になってきました。学校事務職員もこのような社会の変化に敏感に適応して存在感のある立場になる必要があるでしょう。

## 学校事務研修会のお知らせ

研修委員会では、平成18年1月27日（金）午後3時より新宿区立大久保地域センターにおいて、実務研修会「任意継続組合員制度について」を開催いたします。

（JR山の手線新大久保駅、総武線大久保駅、大江戸線東新宿駅下車）

退職者急増期を前に任意継続組合員制度について公立学校共済組合東京支部 資格係から詳しく話していただきます。開催通知は支部長様を通して配付させていただきます。ふるってご参加ください。

研修委員会では、委員一同会員の皆様にお役に立つ内容の研修会を開催したいとの思いで委員会活動を進めています。ご意見、要望等をお聞かせください。

研修委員会

## 各委員会の事業報告

### 調査研究委員会

11月15日（火）葛飾区立葛美中学校にて、調査研究委員会を一日開催いたしました。

内容といたしましては、今後発行予定の「個人情報保護に関する事項をまとめたCD-ROM」について、内容の精査作業を主に行いました。その作業の過程で、7月に実施しました「個人情報保護に関するアンケート」の質問回答につきましては、委員会で協議の結果、明確に回答できるものに限定させていただくことになりました。せっかくいただいた質問ですが、委員会として、不確かな回答したことと責任を負うことが出来ないこともあり、回答できないものは、掲載を差し控えさせていただきます。ご了承ください。

現状では、漏洩事故の発生内容を網羅し、漏洩を防ぐためにPCデータの管理（特に廃棄時）を中心に作成しております。そのほかにも、ウイルス・法令概要・東京都の各自治体の取組み等（WEBリンク）を収録することを考えております。

CD-ROMの完成に向け、委員一同頑張っております。今後とも調査研究委員会活動へのご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

### 広報委員会

会報第363号を発行いたしました。今回は、東京都公立中学校事務職員研究大会の案内を特集いたしました。また、各支部の研修活動報告は、稲城支部、仲間だけに教えては、練馬支部にお願いいたしました。ご覧下さい。

### 【今後の予定】

363号	本号	
364号	3月発行予定	都公中事研究大会の報告等
「研究収録」	2月10日発行予定	都公中事研究大会 当日
小中高研究大会「記録集」	3月発行予定	

## 東京都公立学校事務職員研究協議会 第41回研究大会無事、終了いたしました。

12月13日（火）東京都教職員研修センター（目黒）において、東京都公立学校事務職員研究協議会 第41回研究大会が開催され、無事終了いたしました。今回の幹事が中学校ということで、中学校が主管いたしました。

午前中、全事研新潟支部長の 金井 洋子氏による「災害時における学校事務職員の役割—新潟中越地震を経験して—」を講演していただき、われわれ学校事務職員が災害時どのように対応していったらよいのか、たいへん参考になりました。大都市東京、大地震が、いつきてもおかしくない時期です。普段から心がけていきましょう。

午後は、東京都福利厚生事業団業務課メニュー選択事業係から「メニュー選択方式の現況について」ということで説明がありました。とても、詳しく説明していただきました。これで利用も増えることでしょう。その後、各分科会に分かれ研究発表が行われました。

中学校は、第2分科会（大田支部）「事務補助臨時職員問題と事務室における個人情報保護対策」について研究発表いたしました。第1分科会（小学校担当）「朝顔セットはなぜ売れるか」、第3分科会（都立学校担当）「学校組織マネジメントとは何か」でした。

中学校担当の大田支部さんご苦労様でした。

各分科会の参加状況は、下表のとおりです。

午前 講演会		午後 研究発表					合計
小学校	149名	第1分科会	小 115名	中 21名	都 3名	一般 6名	145名
中学校	80名	第2分科会	小 52名	中 81名	都 3名	一般 9名	145名
都立学校	34名	第3分科会	小 16名	中 7名	都 26名	一般 2名	51名
一般	21名						
合計	284名	合計	183名	109名	32名	17名	341名

## 支部の研修・研究活動

### 稲城支部

稲城支部の母体となる稲城市公立学校事務職員会は、小学校11校、中学校6校の計17校の都費負担事務職員18名によって構成され、研修・研究活動の内容は大きく2つに分けられる。

#### 1 稲城市公立学校事務職員会による研修・研究

稲城市公立学校事務職員会では、市教委・会員相互の連絡・調整を行う定例会の他に、職務遂行に関係する研究事業として、夏季研究協議会・他地区研修などを行っている。

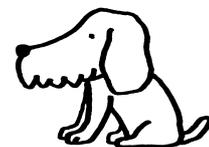
夏季研究協議会は、指導室主催で行われるもので、市嘱託員も参加し毎年行われている。本年度は、「学校の安全」と「図書館PFI事業」という2つのテーマで研修を行い、それぞれ学校セーフティ指導員と稲城市立図書館長の講演を受けた。その後、意見交換を行い、会場となった小学校の施設見学を行った。

他地区研修では、「フレーム予算」について学ぶため、国分寺市立第七小学校で研修を行った。

#### 2 稲城市立学校教育研究会(学校事務部)による研修・研究

稲城市では、教職員を対象に、稲城市立学校研修体系の教科等研修・研究部門として小中合同の「稲城市立学校教育研究会(稲教研)」が組織されている。学校事務部は、都費事務職員で構成され、校長・副校長が顧問等として、部の運営等への指導・助言を行っている。部会では実務に関係した研究を行い、2月の研究発表会で発表を行っている。

16年度は、「豊かな生活を求めてー福利厚生浸透のための事務の役割ー」をテーマに、研究・発表を行い、身近な福利厚生事業の具体的な項目を、教職員向けのわかりやすい手引書にして作成・配布した。



# 仲間だけにおしえて 練馬区編

＝練馬だいこんの発祥地練馬から、2つの行事とおいしいものをご紹介します＝

**【酉の市】** 11月の酉の日、大鳥神社（豊玉北5-18-14・西武池袋線・練馬駅徒歩2分）にて、縁起物の熊手を売る市がたちます。出店などもいっぱい出て、たくさんの人でにぎわいます。特に、開運と商売繁盛の神様といわれているだけあって、商売関係の方々が祈願に訪れ、大小様々の熊手を買っていく姿が印象的です。

**【関のボロ市】** 本立寺（関町北4-16-3・西武新宿線・武蔵関駅0分）門前で、12月9日・10日に開かれる市で、『暮れの市』『年の市』とも呼ばれ、江戸時代中期＜宝暦元年・1751年＞以来行われており、区の無形民俗文化財に登録されています。

夜はたくさんの万灯行列が練り歩きます。

[関のボロ市]



「みんなで選んだ

**ねりまの名品 21**」の中の洋菓子を紹介します。

- \* かすたねっこのクッキー
- \* 大泉クリーム
- \* 石神井散歩
- \* きたまちおとめ
- \* 名代 惣兵衛最中
- \* 練馬大根最中
- \* むさし野の関所最中
- \* 登録銘菓キャベツっ子最中

最後に、冒頭に記した“ねりまだいこん”とはほとんど関係ない記事になってしまったことをお詫びいたします。では、ねりまだいこんはどうなっているの？という関心をもたれる方は「昔づくり練馬たくあん」を販売しているお店に問い合わせしてみてください。

高山食品(株) 練馬区高松4-21-7 ☎ 3926-1122 へどうぞ

